

生きてはたらく言語能力を高める国語科学習  
〜楽しくて、力がつく言語活動の工夫〜

二年生「書くこと」の実践

提案者 青木 天平（下呂市立宮田小学校）

### 一 テーマ設定の理由

これまでの研究から「児童にとって学ぶ必然性がある言語活動を設定すること」「単元・単位時間の導入でモデル提示をすること」が児童の主體的な学びにつながるということが確認できた。主体的に学ぶ姿だけでなく、児童が自分の考えを広げたり深めたりしながら、適切に表現できる力をつけるために、さらに研究を進めることとした。

### 二 研究仮説

単元で「付けたい力」を明確にし、魅力的な言語活動を位置付け、主体的・対話的な学びを生み出す学習過程や学習活動、学習環境を工夫すれば、言葉による見方・考え方を働かせ、自分の思いや考えを適切に表現できる子が育つだろう。

### 三 研究内容

- (一) ①児童にとって学習の目的となる魅力的な言語活動の設定
- ②単元を通して、児童に付けたい力を意識した単元構成の工夫
- (二) ①付けたい力に迫るための言語活動の有効な指導方法、指導・援助の工夫
- ②児童が、自己の高まりを自覚できたり、言語の主體的な使い手として自信をつけたりする出口の工夫

### 四 研究実践

(一) ①**児童にとって学習の目的となる魅力的な言語活動の設定**  
二年生の生活科と国語の本単元を関連付け、一年生とおもちゃを遊んだ時に、おもちゃの作り方の説明書もプレゼントすることを目的として、単元の出口の言語活動を設定した。

#### ②**単元を通して、児童に付けたい力を意識した単元構成の工夫**

単元導入時に、試しに説明書を書いてみる時間を設けた。それにより、

目的意識をもたせて説明文を読んだ。また、単元終末時、出来上がった説明書と試しを読み比べる活動を入れ、成果を振り返られるようにした。

(二) ①**付けたい力に迫るための言語活動の有効な指導方法、指導・援助の工夫**

教材文から、児童たちが見つけた「せつめい書のわざ」（＝説明書を書くときの視点）を一覧表にした。説明書を書く際、「写真・動画コーナー」を設置し、自分が作ったおもちゃを手元に置いた。試し書きや「せつめいのわざ」チェックリストも手元に置き、自分で振り返ったり確かめたりできるようにした。同じおもちゃを選択した仲間グループ隊形を組み、相談したりアドバイスしたりしやすくなった。

一単位時間に必ず身に付けたい力（＝指導事項）を一つに絞り、本時に指導・評価すべきことを焦点化した。

#### ②**児童が、自己の高まりを自覚できたり、言語の主體的な使い手として自信をつけたりする出口の工夫**

自分たちが教材文から見つけた「せつめい書のわざ」のポイントに沿って、単元の初めと終わりに自己評価した。

「単元学習シート」を作り、単位時間ごとの学習内容に基づいた、学習の「めあて」「流れ」「授業の振り返り」を書くようにした。

### 五 成果と課題

- 相手意識・目的意識を明確にもてるように、魅力ある単元目標の設定や学習過程を工夫することで、一人一人が目的意識をもって学び続ける姿や達成感を味わうことにつながることができた。
- 学習環境を充実させることは、自己調整しながら集中して学び続ける姿を生み出した。
- 個人の学習計画表や「せつめい書のわざ」チェックリストがあることで、児童自身が、付けたい力を常に意識して学ぶことや学びの変容を自覚することができ、今後に生かそうとする意欲につながった。
- 「書く」言語活動は、時間がかかりやすい。限りある学習時間の中で終えられるように、指導事項の精選や学習活動、指導・支援の仕方を工夫する必要がある。
- 「単元学習シート」の振り返りの記述の仕方の指導で、次に頑張りたいことまで書かせることで、さらに見通しをもって自ら学びを進められるようにしたい。